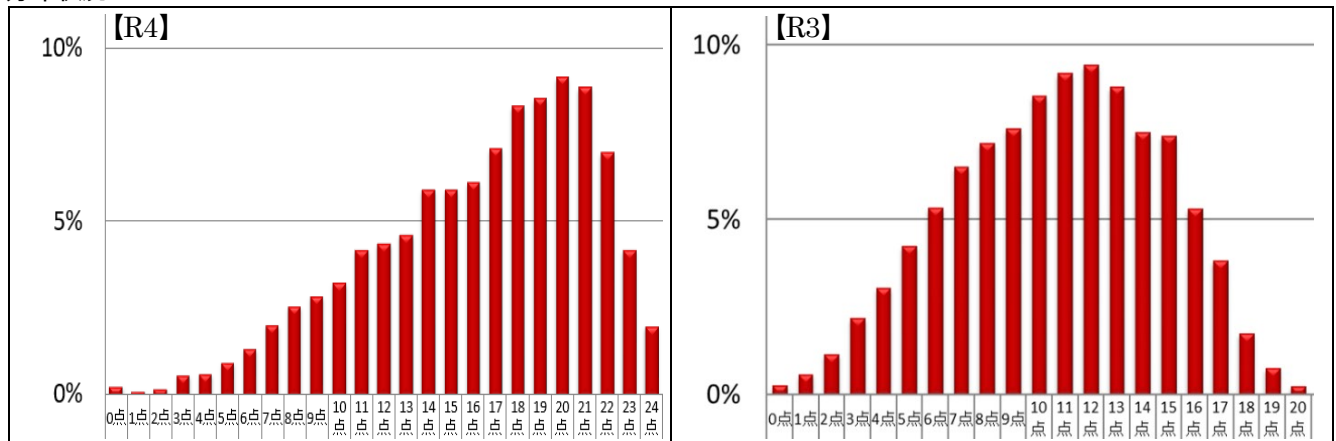


授業改善の手引 小学校第5学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数はR3年度より4問増え、正答数の最頻値は20問、平均正答数は16.3問です。R3年度の分布と比較して山が右に移動しています。平均正答数が5問以下の児童が全体の2.4%となっており、R3と比較し大きく減少しているものの、この層に属する児童へのきめ細かな指導が引き続き必要です。

(正答数の最頻値：該当する児童数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

| 観 点 ・ 領 域 等 | 正答率 ()はR3 |
|---------------------------|--------------|
| 知識・技能 (9問) | 69.0 % (57%) |
| 思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと) (4問) | 65.1 % (57%) |
| 思考・判断・表現 (書くこと) (4問) | 73.9 % (51%) |
| 思考・判断・表現 (読むこと) (7問) | 64.4 % (49%) |

(3) 結果概要

- ア 【知識及び技能】については、9問出題され平均正答数は6.2問でした。
 - 「文脈に沿って、語句を適切に使う」は正答率78.9%であり、良好でした。
 - 「漢字の由来、特質について理解する」は正答率が35.5%であり、課題が見られます。
- イ 【思考力、判断力、表現力等】(話すこと・聞くこと)については、4問出題され平均正答数は2.4問でした。
 - 「互いの立場を明確にして、考えをまとめる発言を捉える」は正答率72.1%であり、良好でした。
 - 「話の意図が明確になるように話し合う」は正答率55.6%であり、課題が見られます。
- ウ 【思考力、判断力、表現力等】(書くこと)については、4問出題され平均正答数は2.9問でした。
 - 「自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫をとらえる」は正答率85.8%であり、良好でした。
 - 「自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く」は正答率62.2%であり、引き続き指導の工夫が必要な状況です。
- エ 【思考力、判断力、表現力等】(読むこと)については、7問出題され平均正答数は4.5問でした。
 - 「登場人物の行動について、叙述を基に捉えて読む」は正答率76.6%であり、比較的良好でした。
 - 「目的に応じて、必要な情報を見つけて読む」は正答率53.6%であり、課題が見られます。(授業実践アイデア例 参照)

(4) 経年比較問題の状況 (○改善、◇改善傾向、●課題が継続を表す)

| 通番号 | 正答率 | 比較 | 調査のねらい |
|----------|-----|----|--------------------------------|
| ● 7(知・技) | 37 | 4 | 修飾と被修飾との関係を理解する。 |
| ◇ 15(読) | 68 | 17 | 場面の展開を捉えて読む。 |
| ◇ 19(読) | 61 | 9 | 段落相互の關係に着目して読む。 |
| ◇ 24(書) | 62 | 13 | 自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く。 |

- 通番号7は、若干のポイントの上昇は見られるものの、課題が継続している状況です。
- ◇ 通番号15、19、24は正答率が大幅に上昇し、改善傾向が見られましたが、引き続き注視が必要です。

小問正答グラフ

| 5年 国語 | 岩手県事務局 | 正答率 | 選 択 No. | | | | | | (人) | | 出題形式 | |
|----------|--------------------------------|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----|----------|------|--|
| | | | 1 選択 | 2 選択 | 3 選択 | 4 選択 | 5 誤答 | 6 正答 | 9 | 0 無回答 | | |
| 1 | 話の意図が明確になるように話し合う。 | 55.6 | 7.4 | 18.1 | 18.4 | 55.5 | 0.2 | 0.0 | | 0.3 | 選択 | |
| 2 | 互いの立場を明確にして、考えをまとめる発言を捉える。 | 72.1 | 72.0 | 16.8 | 5.9 | 4.7 | 0.2 | 0.0 | | 0.3 | 選択 | |
| 3 | 話す場面を意識した表現の工夫を捉える。 | 70.4 | 7.0 | 14.6 | 70.4 | 7.4 | 0.2 | 0.0 | | 0.4 | 選択 | |
| 4 | 自分が聞こうとする意図に応じて聞く。 | 62.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 29.4 | 62.3 | | 8.2 | 記述 | |
| 5 | 自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫を捉える。 | 85.8 | 6.4 | 85.8 | 3.7 | 3.6 | 0.1 | 0.0 | | 0.3 | 選択 | |
| 6 | 文章全体の構成や展開を捉える。 | 80.3 | 80.2 | 9.3 | 6.5 | 3.4 | 0.1 | 0.0 | | 0.4 | 選択 | |
| 7 | 修飾と被修飾との関係を理解する。 | 37.3 | 35.3 | 10.2 | 15.5 | 37.3 | 0.9 | 0.0 | | 0.7 | 選択 | |
| 8 | 文脈に沿って、語句を適切に使う。(対義語) | 78.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 20.5 | 78.9 | | 0.6 | 記述 | |
| 9 | 文脈に沿って、漢字を適切に使う。 | 71.0 | 71.0 | 17.4 | 3.8 | 6.1 | 1.0 | 0.0 | | 0.8 | 選択 | |
| 10 | 漢字の由来、特質について理解する。 | 35.5 | 19.0 | 33.3 | 9.3 | 35.5 | 0.9 | 0.0 | | 1.9 | 選択 | |
| 11 | 第4学年配当漢字「不思議」を正しく読む。 | 97.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.4 | 97.8 | | 0.9 | 記述 | |
| 12 | 第4学年配当漢字「焼(く)」を正しく書く。 | 61.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 31.5 | 61.6 | | 6.9 | 記述 | |
| 13 | 第4学年配当漢字「変(わる)」を正しく読む。 | 94.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.7 | 94.0 | | 1.2 | 記述 | |
| 14 | 第4学年配当漢字「種類」を正しく書く。 | 74.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 20.8 | 74.9 | | 4.3 | 記述 | |
| 15 | 場面の展開を捉えて読む。 | 67.8 | 1.9 | 13.1 | 67.8 | 14.5 | 1.3 | 0.0 | | 1.0 | 選択 | |
| 16 | 登場人物の行動について、叙述を基に捉えて読む。 | 76.6 | 11.7 | 76.6 | 4.6 | 5.9 | 0.1 | 0.0 | | 0.6 | 選択 | |
| 17 | 登場人物の心情について、描写を基に捉えて読む。 | 74.9 | 7.7 | 10.2 | 5.4 | 74.9 | 0.4 | 0.0 | | 1.0 | 選択 | |
| 18 | 登場人物の心情について、描写を基に捉えて読む。 | 53.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 37.1 | 53.1 | | 9.5 | 記述 | |
| 19 | 段落相互の関係に着目して読む。 | 61.1 | 17.8 | 61.1 | 12.0 | 6.9 | 0.1 | 0.0 | | 1.6 | 選択 | |
| 20 | 国語辞典の使い方を理解する。 | 69.7 | 4.8 | 7.4 | 69.7 | 15.9 | 0.1 | 0.0 | | 1.7 | 選択 | |
| 21 | 目的に応じて、必要な情報を見付けて読む。 | 63.8 | 10.0 | 12.8 | 10.2 | 63.8 | 0.2 | 0.0 | | 2.7 | 選択 | |
| 22 | 目的に応じて、必要な情報を見付けて読む。 | 53.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 33.0 | 53.6 | | 13.0 | 記述 | |
| 23 | 段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。 | 67.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 23.1 | 67.2 | | 9.3 | 記述 | |
| 24 | 自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く。 | 62.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 27.6 | 62.1 | | 9.9 | 記述 | |
| 25 | 平均正答率 | | 67.8% | | | | | | | | | |

【問題番号 7】 正答率 37.3% 無解答率 0.7%

1 問題のねらい

修飾と被修飾との関係を理解することができる

2 授業実践のアイデア例

提供者 県北教育事務所（軽米町）指導主事 菊地 光史

第3学年 単元名「くわしくしよう わたしたちの言葉」

教材名「修飾語を使って書こう（光村図書）」「くわしく表す言葉（東京書籍）」

◎〔知識及び技能〕の指導事項(1)カ「主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること」を重点として取り上げ、3時間扱いで指導しました。

（光村図書のみ「修飾語」という言葉を使用しますが、東京書籍であっても必要に応じて指導します）

◎「主語と述語にそれぞれ修飾語を加えて組み合わせる」という言語活動を設定し、初めに設定した主語と述語に様々な修飾語を加えて詳しくし、その主語と述語を最後に組み合わせることで、対象を明確にして修飾語を使うことで表現を詳しくする学習を行いました。

◎指導に当たっては、主語と述語を一度分離したうえでそれぞれを詳しくすることで、修飾する対象を明確にするようにしました。また、主語と述語を組み合わせた段階で、出来上がった文が表す様子をみんなで確かめ、修飾語の効果を実感できるようにします。最後に、それぞれの修飾語を「どんな」「何を」など表す役割ごとにカテゴリ分けすることで、修飾語の多様性と日常性に気付くように、次のような単元の学習過程を展開しました。

【単元計画】

- ① 修飾語の無い主述のみの一文を示し、伝達できる情報が僅かであることから、詳しくする言葉の必要性を確認する。主語と述語のそれぞれに、詳しくするとしたらどんな言葉があるかを問い、出し合った言葉を共有する。（ICTの活用）修飾語を使うことで詳しく伝えられることを実感し、学習計画を立てる。
- ② 前時に出された修飾語は、それぞれどのようなこと（「どんな」「何を」など）を表すのか話し合い、整理分類する。任意のねらい（「何を」を加えて詳しくしましょう、など）を示し、それに合った修飾語を使って文を詳しくする学習活動を通して、自分で学びを活用する。
- ③ 修飾する対象が誤っているモデルを提示し、誤りを正す中で修飾語には「対象を明確にしないと正しく伝わらないことがある」という性質があることを捉える。『どれをくわしくしているでしょうクイズ』を作成し、クイズ大会を通して修飾と被修飾の関係に対する意識をもたせ、単元の学習を振り返る。

◎上記の単元計画の中で、「詳しくする言葉（修飾語）」を対象に加えることを、矢印だけではなく、図やイラストなどでイメージを喚起することが考えられます。例えば、対象となる主語（あるいは述語）に向けて吹き出しの中に修飾語を書いて貼っていくことや、対象となる言葉に対して「服を着せる」イメージで着物やシャツなどのイラストの中に修飾語を書き込み、対象となる言葉は子どものイラストで表現することなどが考えられます。いずれにしても、「くわしくする」「修飾する」ということに対して児童にどうイメージをもたせるかが大切だと考えます。

◎評価に当たっては、②において、児童がねらいに合わせて修飾語を加えているかを確認し、十分な理解まで至っていない児童にはいくつかの例から選択させるなどをしながら学びの状況を見取り授業の改善をしました。③においてクイズ作成の際に問題と答えを作成することとし、その問題と答えが適当であるかを確認し評価を行いました。

【問題番号 7】 正答率 37.3% 無解答率 0.7%

1 問題のねらい

修飾と被修飾との関係を理解することができる

2 授業実践のアイデア例

県北教育事務所（軽米町）指導主事 菊地 光史

第4学年 単元名「言葉に気をつけて、文を組み立てよう」

教材名「つながりに気をつけよう（光村図書）」「文の組み立てと修飾語（東京書籍）」

◎【知識及び技能】の指導事項(1)カ「主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること」を重点として取り上げ、2時間扱いで指導しました。

（光村図書の「つながりに気をつけよう」は関係する内容が教材の一部になります）

◎「文章を書いて、使った言葉を分類する」という言語活動を設定し、様々な文例から言葉の位置や読点の位置、言葉の配置によって文意が変わったり正しく伝わらなかったりすることに気付き、自分が作成した文章について、使用した言葉がどんな役割を果たしているのか整理・分析する学習を行いました。また、学習を通して修飾被修飾の関係を再度見直すようにしました。

◎指導に当たっては、マイナスモデルを活用し、適切ではない理由は何か、どのように直せばよいのか等を言語化することで文を認知し、言葉に対する意識を高めるようにしました。また、「言葉には果たしている役割がある」ことを具体的に意識できるように、次のような単元の学習過程を展開しました。

【単元計画】

① これまで各教科・領域等の学習で文を書いてきた経験を想起し、また将来的に生きていく中では多様な文章を自分の力で書いていく必要があることを想像させ、正しく分かりやすい文章を書く力の必要性を意識させる。語順のずれや読点の不足により、修飾被修飾の関係が不明確なマイナスモデルを示し、正しく伝達できているかどうか曖昧であることから、文の組み立てについての課題意識をもつ。マイナスモデルの修正を通して、修飾語と被修飾語の関係を再度確認する。図や矢印を使って文中の言葉の関係を図示し、分類する。

（例：主語 述語 ○○を修飾する語 など）

② 前時の学習を振り返り、修飾語について問う質問をする。

（例：「○○を修飾している言葉はどれですか」「○○が修飾している言葉はどれですか」

「○○はどの言葉に修飾されていますか」「○○はどの言葉を修飾していますか」）

問い方を分析し、『何を聞いているでしょうか？修飾語クイズ大会』を行い、クイズ大会を通して修飾と被修飾の関係に対する意識をもたせ、単元の学習を振り返る。

◎3年生、4年生と、学習のまとめにクイズを行うことで、興味関心や意欲を喚起しながら修飾語への意識を高めるようにしました。なんとなく、ではなく、言葉一つ一つに着目することをねらいとしています。また、クイズに答えることよりも、作問することで修飾と被修飾の関係をより深く考えるようにしたいと考えます。

◎評価に当たっては、②において、図示と分類が適切であるかを見取り、授業の改善をしました。③においてクイズ作成の際に問題と答えを作成することとし、その問題と答えが適当であるかを確認し評価を行いました。

【問題番号 18】 正答率 53.1% 無解答率 9.5%

1 問題のねらい

登場人物の心情について、描写を基に捉えて読むことができる

2 授業実践のアイデア例

県北教育事務所（軽米町）指導主事 菊地 光史

第5学年 単元名「描写をもとに心情をとらえ、朗読で表現しよう」

教材名「大造じいさんとガン（光村図書）」「大造じいさんとがん（東京書籍）」

- ◎「読むこと」の指導事項イ「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」を重点として取り上げ、7時間扱いで指導しました。
- ◎「描写をもとに大造じいさんの心情を具体的に想像し、伝え方を工夫して朗読で表現する」という言語活動を設定し、描写から大造じいさんの心情を想像し具体的に言語化することで、朗読の工夫の内容を明確にして表現する学習を行いました。
- ◎指導に当たっては、地の文の視点が大造じいさんであることを学習したうえで、物語の展開の中で大造じいさんの心情がどのように変化していくかについて描写を基に読み、言語化していくようにします。優れた表現に込められた大造じいさんの心情を想像し言語化していくことで、「どのように朗読をしたいか」「それはなぜか」を明確にして表現ができるよう、次のような単元の学習過程を展開しました。

【単元計画】

- ① 朗読音源や範読等の朗読モデルと、教師が作成した朗読のマイナスモデルを聞かせ、違いを整理する。違いがどこから生じるのかを考え、内容と心情理解の必要性を確認し、学習計画を立てる。地の文の視点についても分析する。
 - ② 場面の移り変わりそれぞれの場面での大造じいさんの心情を描写から捉え言語化する。
 - ③ 物語全体を通した大造じいさんの心情の変化を捉え、朗読場面を決定し描写の読みに基づいた表現の工夫を計画する。
 - ④ 工夫が明らかになるよう朗読の練習を行い、朗読発表会をする。
 - ⑤ 他者の工夫を踏まえながら、単元の学びについて振り返る。
- （※○数字は学習順であり、時数ではない）

- ◎上記の単元計画の中で、②において、ある1単位時間では以下のように展開しました。

【本時の展開】

- ・三の場面について、大造じいさんの心情を捉えることができる描写を挙げる。
- ・それぞれの描写から想像した大造じいさんの心情を言語化する。
 - ◇直接的な描写の例：「大造じいさんはかけつけました。」
⇒『どうなったんだ』『残雪は無事なのか』『（大造じいさん自身に自覚がないけれど）心配だ』
 - ◇間接的（暗示的）な描写の例：「いよいよ（残雪の一群が～）」
⇒『ついに来たな』『（気持ち）盛り上がってきた』『わくわくする』『待っていたぞ』『東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。』
⇒『気持ちが燃えてきたぞ』『勝負だ』『始まるぞ』
- ・それぞれの言語化を全体で共有し、整理する。（ICTの活用）
- ・山場における場面の展開と大造じいさんの心情の変化をまとめる。
- ・自身の学びを振り返り、付けた力を認知する。

- ◎評価に当たっては、②において描写から大造じいさんの心情を言語化しているか、またグループワークや全体での学びを通して検討を重ね、その言語化された心情が描写に対して妥当であるかを見取るようにしました。この見取りにより児童の学びが望ましい方向に進んでいるかを判断し、②～③に至る学習過程の改善に生かしました。

②の学びを踏まえ、③において、児童自ら選択した場面における朗読表現の工夫の計画が適切であるかを見取り、本単元における重点である「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」について評価を行いました。

【問題番号 22】 正答率 53.6% 無解答率 13.1%

1 問題のねらい

目的に応じて、必要な情報を見つけて読むことができる

2 授業実践のアイデア例

沿岸南部教育事務所 主任指導主事 木下 克美

第5学年 単元名「新聞を読もう」 (光村図書)

◎「読むこと」の指導事項ウ「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる」を重点として取り上げ、3時間扱いで指導しました。

◎「自分が興味をもった新聞記事について思いや考えを書く」という言語活動を設定し、報道の文章を読み、わかったことや考えたことを話し合ったり、文章にまとめたりする学習を行いました。

◎指導に当たっては、新聞の作り（見出し、リード文、本文 等）を学習した後、同じ話題について書かれた二つの新聞記事を比べて読み、共通点や相違点は何か、なぜ違いが生まれるのかなどについて考える活動、話し合う活動を通して、必要な情報が対象や目的に応じて変わること気付けるよう、次のような単元の学習過程を展開しました。

【単元計画】

- | | |
|-----|--|
| 第1時 | ①教科書から、新聞の1面の構成について確認する。 ②実際の新聞を用意しておき、1面の構成を確認しながら目を通し、気付いたことなどをノートに書く。 |
| 第2時 | ③新聞のそれぞれの面には、どのような分野の記事が書かれているかを調べる。 ④P100-101を読み、二つの記事についてどんな違いがあるか、どうして違うのかなど、考えたことをノートに書く。 |
| 第3時 | ⑤二つの記事について考えたことを話し合う。 ⑥新聞の中から自分が興味をもった記事の一つを選び、その記事について思ったことや考えたことなどをノートに書く。 ⑦自分の選んだ記事と考えたことについて、グループで紹介し合う。 ⑧学習の振り返り |

◎上記の単元計画の中で、第2時において以下のように展開しました。

【本時の展開】

- ・二つの記事を比較し、新聞の作りに沿って、共通点と相違点を書き出す。
例) 見出し、リード文の内容はほぼ共通している。本文に違いがある。
- ・本文を比較し、共通点と相違点に線を引く。
例) 共通点：「9秒98」「高校3年生で10秒01」
相違点：全国紙は「9秒台について関わること」地方紙は「人物の歩み」
- ・同じ話題でも記事の内容が異なるのはなぜかを考える。
①自分の考えを書く。
②グループで話し合う。

※本文における共通点と相違点をマーカーを使って色分けするなど、ICTを活用して視覚的に理解を深めるなどの工夫が考えられる。

同じ話題でも、誰に向けて書かれているか（読み手）や何を伝えたいか（目的）によって、記事の内容が異なる。

◎評価に当たっては、ノートに書き出した自身の考えを基に、グループでの話し合いや全体での学びを通して、目的（読み手や書き手の意図等）に応じて、必要な情報が変わること気づけたかどうかを見取るようにしました。